

コンビニ・セコマと北ガスグループが災害対応力強化で提携 災害に強いコンビニに！都市ガス・LPGのGHPなど導入

北海道で約1,100店のコンビニを展開する株式会社セコマ（丸谷智保社長，本社札幌市）と北海道ガス株式会社（大槻博社長，本社札幌市，北ガス）と北ガスグループの北ガスジェネックス株式会社（杉岡正三社長，本社札幌市）は20日，共同記者会見を開き「災害対応力強化に関する相互連携協定」を締結したと発表した。

この協定は，災害に強いコンビニのエネルギーシステムの構築及び災害発生時のエネルギー・物資の相互協力に関するもので，地震等の災害時においてもセイコーマートの店舗運営を続けること，ガスの災害復旧対応を円滑に進め，地域の安心・安全な暮らしを支えることを目的としたもの。

具体的には，セコマ側はコンビニにおけるエネルギーシステムの実証に協力するほか，災害時のガスインフラ復旧作業の際に必要な食料品や生活物資等を提供するのに対して，北ガスグループ側は災害に強いエネルギーシステムを提供する。コンビニに都市ガスによる自立型発電機能搭載型のGHPを設置するほか，停電時の電力の継続的供給を支援するために，LPGポータブル小型発電機や小型LPGボンベを災害発生時に店舗に運搬して必要な電力を確保し，コンビニ店舗の営業を継続に協力する。

2018年9月の北海道胆振東部地震の時には，管内全域が停電するという日本初のブラックアウトが発生。295万戸が50時間停電するという被害を経験したが，そうした際にもガスやガスの自家発電を継続でき，避難生活に必要なエネルギーや食料品・生活物資を住民に提供できるようにする。また，公共施設・病院・避難所に自立発電機能搭載型のGHPを導入することで発電を継続。地域生活を支えていきたいとしている。



株式会社セコマ 丸谷社長(写真右)、北ガス 大槻社長